

かえる倶楽部タイムズ

特集

「脳腫瘍の診断と治療(その1): 髄膜種」

●脳腫瘍とは脳周囲および頭蓋内に発生する腫瘍全般を示し、その種類と発生頻度は図1のとおりです。
 脳から発生する原発性脳腫瘍と他臓器の癌が転移する転移性脳腫瘍に分けられますが、**今回は原発性脳腫瘍で最も多い髄膜種を取り上げます。**

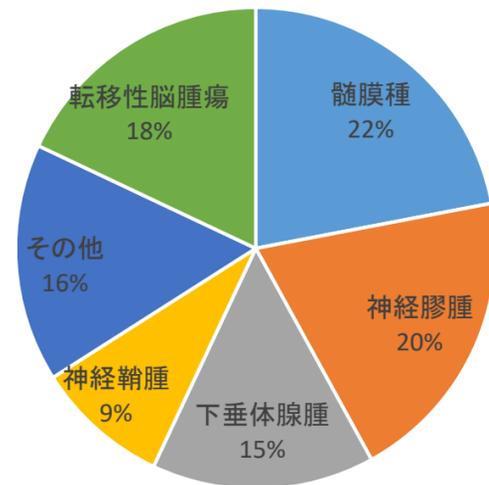


図1: 脳腫瘍の種類と発生頻度

●髄膜種は脳を包んでいる髄膜から発生する良性腫瘍で、症状のない大部分の髄膜種は治療の必要はなく経過観察を行います。
治療が推奨されているのは、症状が出ているもの・症状がなくても3cm以上のもの・増大傾向があるもの(図2)・視神経近傍のものなどです。

●**治療は手術が第一選択**ですが、診断されたらすぐに治療が必要というわけではなく、治療をいつするべきか十分検討することが重要です。

髄膜種は頭蓋内の様々な部位に発生し、発生する場所によって治療の難易度が異なります。また、**多くの場合は第一選択にはなりません**が、**定位放射線治療を含めた放射線治療も有効とされています。**

手術リスクの高い症例では部分摘出に留めておいて、残存腫瘍に定位放射線治療を追加するという方法が一般的になってきました(図3)。

なお、まれに急速に増大する悪性髄膜種も存在し、再発を繰り返して致命的になることもあります。

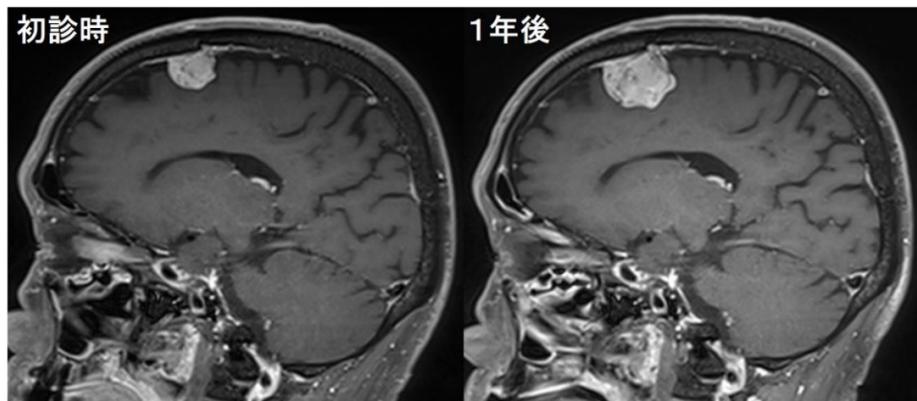


図2: 増大傾向で手術適応となった症例

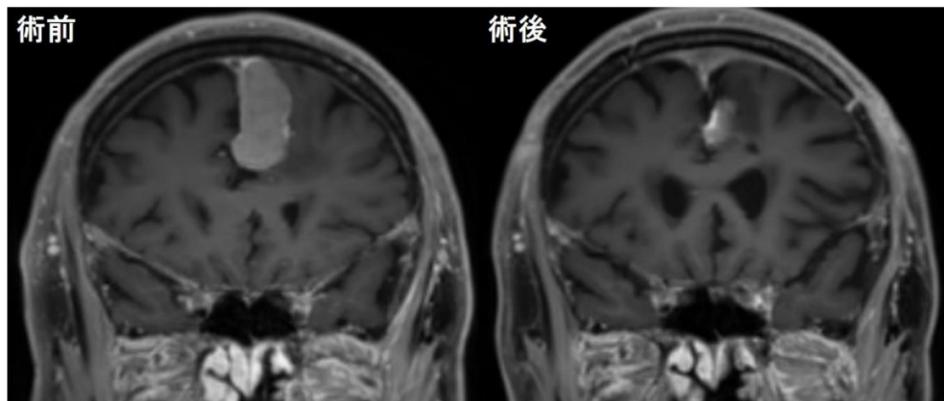


図3: 術後に定位放射線治療を追加して増大のない症例

●当院にはガンマナイフなどの定位放射線治療設備はありませんので、定位放射線治療が必要とされる場合には施行可能な提携病院へご紹介して実施いたしますが、その後の経過観察は当科で責任をもって対応いたします。

●先生方のご施設におかれまして髄膜種が発見された患者様に対しては、地域連携室へご用命いただければ脳神経外科 外来担当医が対応させていただきます。

**【連絡先】 平日 8:30~17:00、土曜日 8:30~12:00
 地域医療連携室 (電話)06-7501-1406**

**上記以外の時間帯は、代表電話 06-6458-5821
 へご連絡下さい。**

関西電力病院
 脳神経外科

部長 **中島 英樹**

日本脳神経外科学会 専門医・指導医

日本脳卒中学会 専門医・指導医

日本脳卒中の外科学会 技術指導医

日本脳神経外科学会近畿支部 学術評議員



Facebook

 Facebook

<https://www.facebook.com/kanden.hospital/>

Twitter

 Twitter

https://twitter.com/kanden_hsp